

# 鹿銀 農業ファンド設立

## 県内7企業 共同で出資 純民間は国内初

鹿児島銀行（鹿児島市）は三十日、地元企業と共同で、南九州の農業や関連産業を支援するアグリクラスターファンドを設立する、と発表した。同行によると、民間だけで構成する農業ファンドは全国初。八月中に投資主体となる事業組合を設立し、運用を始める。

南九州の基幹産業である農業、食品加工業の生産効率や付加価値を高め、新たな商業活動を生み出すのが狙い。国際競争力を持つ農業を育成し、地域経済の活性化につなげる。投資を受ける側には、融資と違い、月々の返済に縛られない利点がある。

ファンドの規模は七億円。うち鹿銀は三億四千万円、タイヨーなど鹿児島県の六企業が一億一千万円を出資。九州を地盤に企業再生などを手がけるドーガン・インベストメンツ（福岡市）も一千万円を出資、運営にあたる。

投資対象は鹿児島、宮崎、熊本の農業法人や食品加工など関連の中小企業に限定。年2%程度の利回りを目標に、株式や社債などに投資する。事業組合は存続期間を十年と定め、初めの三年間で投資を行い、残りの期間を回収にあてる。

会見した鹿銀の永田文治頭取は「新しい農業への挑戦を後押しする。第二、第三のファンドも立ち上げたい」と意欲を語った。

その他の出資企業は小正醸造、坂元醸造、薩摩酒造、新日本科学、南九州ファミリーマー

**民間一丸で 産業育成へ**

鹿児島銀行などが共同設立する農業ファンドは、投資のリターンとして高い利回りを求める外資系などのファンドと違い、地場企業が一体で、南九州の基幹産業育成を図る点に特徴がある。行政を加えず、純民間としたのは、意志決定のスピードを重視したためだ。

農業の事業サイクルは、農地、畜舎の整備に始まり、作物、家畜の育成期間を経て出荷に至る。新たに参入する場合、収入を得るまでに時間がかかる。通常の融資だと、月々の返済が重荷になりかねない。

社債を発行してファンドから資金調達すると、一括償還の時期まで元本返済が据え置かれ、農業の事業特性に合致する。

投資した事業が軌道に乗れば、銀行にとっては将来の貸出先確保にもつながる。ほかの出資企業にとっても、仕入れの安定化や販売拡大など、新たなビジネスチャンスが生まれる可能性がある。

永田文治頭取は会見で「閉塞（へいそく）

感のある日本の農業に刺激を与えたい。鹿児島県の持つ農業の潜在能力を引き出すための設立だ」と説明した。

農業を取り巻く現状は、国際化、担い手不足や自給率低下など厳しい環境にある。世界を見ると、食料不足や東アジアでの需要が増加しつつある。

ファンドを生かし、成長する企業をどれだけ生み出せるか。資金面以外での経営サポートも重要になる。

（政経部・園田尚志）